

- 2012 年 12 月 4 日 公の精神のもとに集うコミュニティー「一志会」の第 13 回例会を開催、ゲストに笠間・前検事総長をお迎えし、「検察の光と影」の講話をいただきました。



一志会は、「公の精神」のもとに社会との関わりをもち積極的に責任を果たそうとの想いを共有する大企業経営幹部の会員制”コミュニティー”ですが、第 13 回例会を、12 月 4 日に開催しました。今回は、ゲストとして一柳の友人の前検事総長である笠間治雄氏をお招きしました。



笠間氏は、検察の現場一筋に歩まれて、東京地検特捜部長、広島高検検事長、東京高検検事長などを経て、2010 年に第 26 代検事総長に就任され、今年 7 月に退任されました。検察の捜査の在り方が社会的に問われた状況の中での検事総長就任で、国民の信頼回復のために様々な改革を先頭に立って取り組まれた経験を踏まえて、日頃、あまり知ることのない「検察」の役割や実態・課題などについてお話しを伺いました。望ましい検察とは「検挙する側、される側、外部の三者が納得するような、処罰をする価値のある事件を手掛けること」との信念のもとに、裁判員制度導入の精神も活かすような検察あり方について率直にお話しされました。会員からは現在の検察審査会などについて質問が出されるなど、司法を巡って質疑が交わされました。



ました。

会員スピーチでは、西日本電信電話の小椋代表取締役副社長から、通信市場が急速な技術革新に伴い猛烈なスピードで、世界的規模で構造変化が続いており、従来の枠組みを超えた発想でグローバルな対応が求められている状況の説明がありました。そして垣根がなくなりつつある通信市場で生じている様々な事業展開の動きを参考にして、企業の戦略はどう考えるべきか、会員の間で意見が交わされ



会の半ばでは、初参加のミスミグループ本社の高家代表取締役社長から自己紹介が行われました。

また、今回は懇談タイムに先立ち、出席した会員全員が近況を報告しあい、その後ゲストも交えた交流を深めて、和気あいあいうちに例会を終えました。